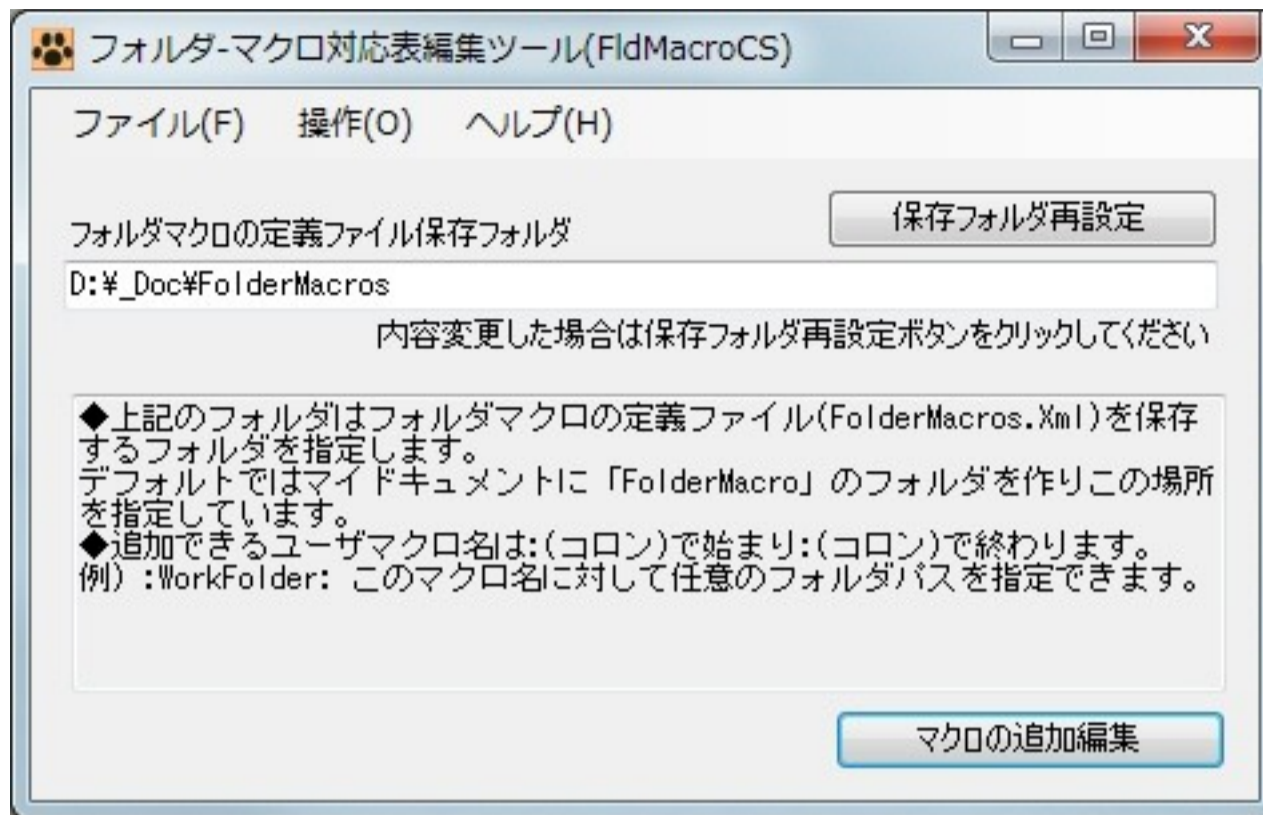




フォルダマクロ対応表編集ツール (FldMacroCS) Ver1.02.0 --- フォルダマクロ定義の編集 ---



機能概略

「フォルダマクロ対応表」とは任意のフォルダパス名を別のわかりやすい文字列(マクロ名)で置き換えて使用する試みです。マクロ名は :(コロン)で囲んだ任意の文字列(日本語可能)としています。試みは筆者の個人的なことです。したがって一般的な Explorer などのファイル管理ツールには及んでいません。サポートできる範囲は筆者が開発した一部のアプリケーションのみです。

フォルダマクロ対応表を保存する場所はデフォルトではユーザ指定のドキュメントフォルダに FolderMacros.Xml というファイルを用意します。サポートを受けるアプリケーションはこのファイルを参照する単純な仕様です。どれほど便利になるのか、不便になるのかは未定ですが、Windows のシステム、レジストリなどには手をつけていませんので少なくとも既存のシステムに害になることはないと思います。

インストール

インストーラは用意していません。任意のドライブに新規にフォルダを作成します。

... 例えば D:¥FldMacroCS とか C:¥Program Files¥FldMacroCS など
その後解凍されたファイル全てコピーします。これでインストールは完了します。
動作させるには、FldMacroCS.exe ファイルをエクスプローラ上でダブルクリックします。
実行ファイルのショートカットをデスクトップやスタートメニューなどに置いておくと使いやすくなります。

<< インストールするドライブのお勧め >>

慣例としてプログラムはシステムディスク(大抵はドライブ C:)にインストールされる場合が多いと思いますが、インストーラを使用しない「FldMacroCS」のインストールはドライブ D: など、データを保存するドライブにインストールすることをお勧めします。

Windows の調子がおかしくなり、ドライブ C: を過去の状態に戻すようなことがあっても「FldMacroCS」はシステム環境の影響をほとんど受けません。マイクロソフトの .NET Framework 2.0 が動作していればまず動きます。

「FldMacroCS」はインストールフォルダへの単なるコピーでインストールが完了します。インストール時には Windows が管理しているレジストリ等は使用していません。また、動作中も能動的にレジストリの読み書きは行っていません。システムフォルダも参照していません。

バージョンアップ

解凍されたファイル全てを上書きコピーしてください。各種設定ファイルなどこれまでの環境にかかわるものはそのまま引き継ぎます。既存の環境を壊すことはありません。

「FldMacroCS」のメニューバーの [ファイル] - [インストール先フォルダを開き終了] は、インストールフォルダを開くと同時にアプリケーションも終了するのでバージョンアップ時には便利です。

アンインストール

アンインストーラはありません。FldMacroCS を終了させた後、FldMacroCS.exe が収まっているフォルダごと削除してください。

インストール時や動作時にレジストリは使っていないのでアンインストールはこれで完了です。

フォルダマクロ対応表を保存する場所(デフォルトではユーザ指定のドキュメントフォルダ)に FolderMacros.Xml というファイルがあります。不要なら削除してください。

... サポートを受けていたアプリケーションがある場合は削除の前にアプリケーション側でマクロ名を用いたファイルパス名は実ファイルパス名に変換した後に削除してください。

動作環境

<動作条件>

日本語Windows2000(sp4) + .NET Framework 2.0
日本語WindowsXP(sp3) + .NET Framework 2.0

~~~~~  
日本語WindowsVista の 32bit版 / 64bit版

日本語Windows7 / 8 の 32bit版 / 64bit版

初期状態で「.NET Framework 2.0」がインストールされていなければ  
インストールが必要です。

最新の日本語Windows8 は「.NET Framework 4.0」がインストールされていますが  
「.NET Framework 2.0」はインストールされていないようです。

... Windows Update の実行でインストールが可能です。(2012/12/14 現在)

「フォルダマクロ対応表編集ツール(FldMacroCS)」は 32Bit版ツールです。

... 64bit仕様のパソコンでは 32bitモードで動作します。

##### <開発環境>

Windows7(sp1) 32bit + Microsoft Visual Studio 2005 C#

##### <テスト環境>

日本語Windows2000(sp4) + .NET Framework 2.0  
日本語WindowsXP(sp3) + .NET Framework 2.0

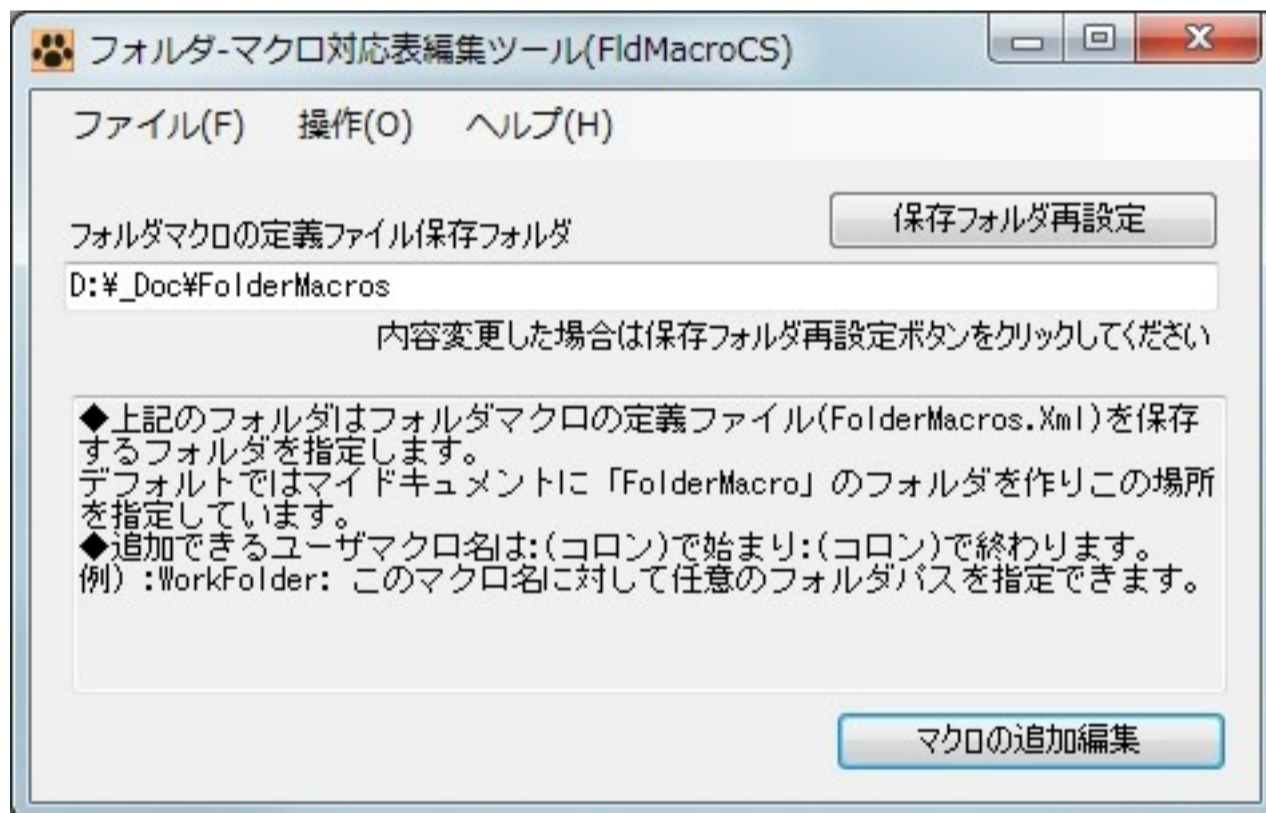
~~~~~  
日本語WindowsVista の 32bit版

日本語Windows7 / 8 の 32bit版 / 64bit版

<その他>

内部操作でレジストリは使用していません。

最初の起動・本体画面



>> 「フォルダマクロ定義ファイル保存フォルダ」

フォルダマクロ定義ファイル保存フォルダ はデフォルトでマイドキュメントフォルダの真下に FolderMacros の名前で作成されこのフォルダに FolderMacros.Xml の定義保存ファイルが作成されます。上図の例ではマイドキュメントフォルダの実フォルダパス名が D:¥_Doc の例で、 FolderMacros.Xml の保存フォルダのパス名として D:¥_Doc¥FolderMacros が指定されていることを表します。

この保存フォルダは別のフォルダに変更することができます。もし変更する場合は FolderMacros.Xml のファイルも移動してください(FolderMacros.Xml が作られている場合)。また、変更したことを本アプリケーションに知らせるためにボタン「保存フォルダ再設定」をクリックしてください。

実際のマクロ定義の追加変更はボタン「マクロ追加編集」をクリックすると対応するダイアログ画面が表示されます。

... メニュー操作の [操作]-[マクロの追加編集]を参照

メニューの操作

[ファイル]-[マクロ定義対応表出力]

現在定義付けされている「マクロ名」と「実フォルダパス名」の対応表をテキスト形式(タブを区切り文字としたデータ)としてファイルに出力します。

メモ帳や Excel(拡張子 txt)などで読み込み、閲覧が可能なファイルです。

[ファイル]-[マクロ定義保存フォルダを開く]

マクロ定義保存フォルダとは FolderMacros.Xml が存在するフォルダで、デフォルトでマイドキュメントフォルダの真下にある FolderMacros のフォルダのことです。

このフォルダを Windows 標準ファイル管理ツールである Explorer で開きます。

[ファイル]-[インストール先フォルダを開く]

「フォルダマクロ対応表編集ツール(FldMacroCS)」のインストール先フォルダを開きます。

[ファイル]-[インストール先フォルダを開き終了]

「フォルダマクロ対応表編集ツール(FldMacroCS)」のインストール先フォルダを開き、そのあとアプリケーションを終了させます。

アプリケーションのバージョンアップなどに使用します。

[ファイル]-[アプリケーションの終了]

「フォルダマクロ対応表編集ツール(FldMacroCS)」を終了します。

[操作]-[マクロの追加編集]

下図のようなダイアログ画面が開き、実際のマクロ定義の追加編集作業を行います。

ユーザによるマクロ名が未設定の場合3件のマクロ名と実フォルダパス名が表示されます。

これらは、ユーザ指定のマクロではないので、ここでは「システム・マクロ」と呼称しておきます。

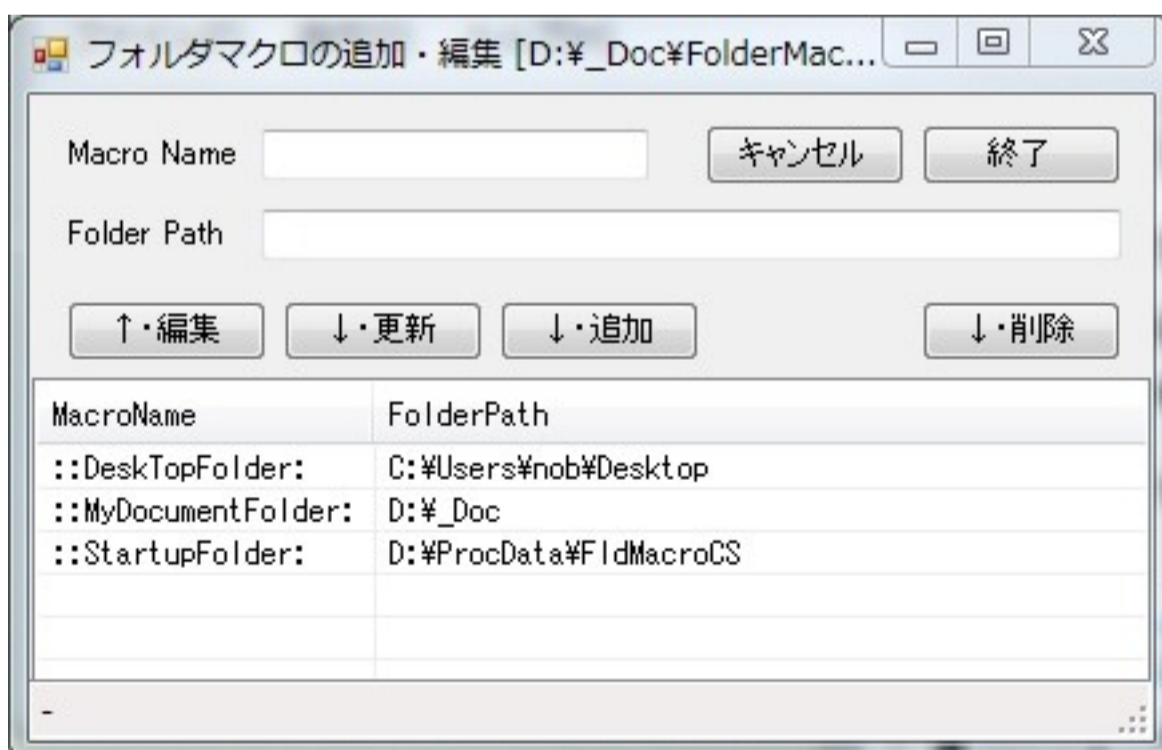
システムマクロは自動で設定され、 ::(コロンが2個)と :(コロン)で区切られたものをマクロ名としています。

システムマクロの実フォルダパス名は FolderMacros.Xml に保存されているものではなく、ツール FldMacroCS.exe の処理の中で導き出されたものです。サポート対象となる各アプリケーションもこの機能を持たせています。

>> ::DeskTopFolder:
Windows の「デスクトップ」の実フォルダのマクロ名です。

>> ::MyDocumentFolder:
Windows の「マイドキュメント」の実フォルダのマクロ名です。

>> ::StartupFolder:
現在参照しているアプリケーションのインストールフォルダのマクロ名です。
現在表示されている実フォルダパス名は FldMacroCS.exe の保存フォルダという意味です。
この値はマクロフォルダを利用するアプリケーションそれぞれのインストールフォルダを意味します。



システムマクロの編集、更新、削除はできません。

ユーザマクロの追加編集

ユーザが自由に作成できるマクロを「システムマクロ」に対して「ユーザマクロ」と呼称します。

ユーザマクロは `:`(コロン 1 個) で囲んだ文字列をマクロ名とします。

例 `...` `:お気に入り:` `:録画フォルダ:` `:撮影写真:` など

ダイアログ画面の上部に編集領域、下部に登録されているマクロ名と実フォルダパス名の表がありその間に操作ボタンを配置しています。

>> 追加

追加の場合は上部編集領域の「Macro Name」欄にマクロ名を記述して、「Folder Path」欄に実フォルダパス名を記述、もしくは Explorer などのファイル管理ツールでフォルダをドラック・ドロップします。

必ず実在するフォルダを指定します。

その後、ボタン「追加」をクリックすると下部の表に追加されます。

MacroName	FolderPath
::StartupFolder:	D:%ProcData%FldMacroCS
::DeskTopFolder:	C:%Users%nob%Desktop
::MyDocumentFolder:	D:%_Doc
:撮影写真:	D:%_Doc%Videos%Camera

`:撮影写真:` のマクロ名を実フォルダパス名 `D:%_Doc%Videos%Camera` に追加定義した例

>> 編集

すでに下部表にあるユーザマクロの変更は、任意の 1 行を選択し、ボタン「編集」をクリックすると上部の編集領域に再現されます。必要に応じて修正、もしくはフォルダのドラック・ドロップなどを行います。

下部表の変更を行う 1 行を選択してボタン「更新」をクリックすると表の内容が書き変わります。

このときボタン「追加」をクリックすると新たな行に追加されます。

>> 削除

下部表にあるユーザマクロの削除は、任意の 1 行を選択し、ボタン「削除」をクリックします。

削除は選択した 1 行のみです。確認画面はできません。

編集が完了したらボタン「終了」で画面を閉じます。この時点で ファイル `FolderMacros.Xml` が更新されます。

「キャンセル」で画面を閉じた場合はこの追加編集画面での全ての操作を無効にします。

[操作]-[保存フォルダ再設定]

フォルダマクロの定義ファイル(`FolderMacros.Xml`)の保存フォルダの場所は、このツール(`FldMacroCS`)の環境設定に記録されています。その場所を変更した場合、場所の再設定を行います。

[ヘルプ]-[バージョン情報]

「フォルダマクロ対応表編集ツール(`FldMacroCS`)」の製品情報を表示します。

[ヘルプ]-[サポートWebページ]

最新バージョンの公開などのサポートページへのアドレスです。(インターネット接続)

